

第51回

姫路お城まつり協賛

姫路城

たきぎのう

薪能

《番組》

能

半部

井上裕久
福玉知登

狂言

鎌腹

茂山千五郎

火入れ式

能

土蜘蛛

上田大介
江崎欽次朗

YouTube 姫路城薪能
チャンネルもご覧ください

姫路城薪能 検索



日時 2022年 5月20日(金) 午後6時00分始

※午後4時30分～加西市こども狂言を開催
※午後5時～親子教室発表会を開催

場所 姫路城 三の丸広場 (特設舞台)

※雨天の場合は姫路市市民会館

ホームページ <http://himeji-takiginou.org/>



入場無料

主催 姫路薪能奉賛会
協賛 江崎福王会・姫路能楽会・上田親正会・大倉華月会
後援 お城まつり奉賛会・兵庫県・姫路市・姫路市教育委員会・姫路商工会議所・公益財団法人姫路市文化国際交流財団・姫路信用金庫ひめしん文化会
■写真提供。生窓雅之 ■題字 清元秀泰姫路市長揮毫

ご案内図 JR姫路駅・山陽電鉄姫路駅から徒歩15分



観世流能「半部」

「半部（はじとみ）」は、源氏物語の「夕顔の巻」に描かれる光源氏と夕顔の上の恋物語を題材としています。

京都、北山の雲林院に住む僧が、ひと夏かけた安居（あんご）の修行「夏安居（げあんご）」とも。九十日間籠もる座禅行」を全うする頃、毎日供えてきた花のために立花供養を行っていました。すると夕暮れ時に女がひとり現れ、一本の白い花を供えました。僧が、ひととき美しく可憐なその花の名は何か、と尋ねると、女は夕顔の花であると告げるのでした。畳み掛けるように、僧が女の名を尋ねると、その女は、名乗らなくともそのうちにわかるだろう、私はこの花の陰からきた者であり、五条あたりに住んでいる、と言いつつ、花の中に消えてしまいます。

里の者から、光源氏と夕顔の君の恋物語を聞いた僧は、先刻の言葉に頼りに五条あたりを訪ねます。そこには、昔のままの竹まいで半部に夕顔が咲く寂しげな家がありました。僧が菩提を叩くとすると、半部を上げて夕顔の霊が現れます。夕顔の霊は、光源氏との恋の思い出を語り、舞を舞うのでした。そして僧に重ねて叩いて頼み、夜が明けさらぬうちに半部の中へ戻っていきます。そのすべては、僧の夢のうちの出来事でした。



能「半部」

大蔵流狂言「鎌腹」

玄関を蹴破って突然、夫婦喧嘩が往来に飛び出したような勢いで、鎌を結び付けた棒を振り上げた妻に太郎（シテ）が追われて出てきます。

仲裁人がわけを聞くと、夫がちつとも仕事をせざる、今日も山へ薪をとりに行かないからだといひます。仲裁人のとりなしで太郎はしぶしぶ山に向かいますが、そんな自分にほとほと嫌気がさし、女房へのあてつけにいっそ死んでやろうと、鎌で百姓らしい死に方をいろいろ工夫しますが、生来の臆病が顔を出し、なかなか死にきれません。聞きつけた妻が駆けつけ、「あなたが死んだら私も生きてはいない」と、思いとどまるようにかきときます。

そのことばを聞いた太郎は一転「自分が死んだあとに死ぬ覚悟があるなら、いまここで自分の身代わりに死んでくれぬか」といいだし、怒った妻にまたまた追われて退場します。口うるさい妻に働け働けと追いまくられる夫、死のうとして死にきれぬ男の生への執着、笑いの奥に男のペーソスが漂います。



狂言「鎌腹」

観世流能「土蜘蛛」

病気で臥せる源頼光（みなもとのかげみつ）のもとへ、召使いの胡蝶（こちょう）が、処方してもらった薬を携えて参上します。ところが頼光の病は益々重くなっている様子です。胡蝶が退出し、夜も更けた頃、頼光の病室に見知らぬ法師が現れ、病状はどうか、と尋ねます。不審に思った頼光が法師に名を聞くと、「わが背子（せこ）が来（く）べき宵なりさきがにの」と『古今集』の歌を口ずさみつつ近づいてくるのです。よく見るとその姿は蜘蛛の化け物でした。

あつという間もなく千筋（ちすじ）の糸を繰り出し、頼光をがんにがらめにしようとするのを、頼光は、枕元にあった源家相伝の名刀、膝丸（ひざまる）を抜き払い、斬りつけました。すると、法師はたちまち姿を消してしまいました。騒ぎを聞きつけた頼光の侍臣独武者（ひとりむしや）が駆けつけます。

頼光は事の次第を語り、名刀膝丸を「蜘蛛切（くもきり）」に改めると告げ、斬りつけはしたものの、一命をとるに至らなかつた蜘蛛の化け物を成敗するよう、独武者に命じます。

独武者が大勢の部下を従えて土蜘蛛の血をたどっていくと、化け物の巣とおぼしき古塚が現れました。

これを突き崩すと、その中から土蜘蛛の精が現れます。土蜘蛛は千筋の糸を投げかけて独武者たちをてこずらせませんが、大勢で取り囲み、ついに土蜘蛛を退治します。



能「土蜘蛛」